

マイ・アートフル・ライフ — 描くことのよろこび —

遅咲きパワー、全開。

本展覧会は、人生半ばを過ぎてから絵を描き始め、その後高い評価を受けた(あるいは受けつつある)石山朔、塔本シスコ、丸木スマの三人展です。ごく普通に働き、結婚し、子供を育てて…という人生を送っていた彼らは、それぞれのきっかけで絵を描くようになり、ユニークなスタイルを確立しました。人生の紆余曲折を乗り越えたエネルギーを創作活動に昇華するかのように、彼らは私たちの心を打つ珠玉の作品を、70歳を過ぎた後に数多く生み出しています。

本展では70代以降に制作された作品を中心に、彼らの人生と作品の魅力を紹介します。

アートフル・ディ！ 7/18！

7/18(土)は朝から、アートフルなイベントが目白押し。すべて、参加無料。事前申込み不要どなたも参加できます。

◆マイ・アートフル・ワークショップ

感じるままに、みんなで一つのアートワークを作り上げるワークショップ。京都造形芸術大学の学生が企画・実施、子どもから大人まで誰でも参加可。
時間：11:00～17:00 (終了予定)
場所：京都造形芸術大学内

◆真夏の夜咄 「マイ・アートフル・ライフ」ギャラリートーク

通信教育部が行う2009年度「真夏の夜咄」シリーズ第1弾。出品作家、石山朔さんがご自身のアートフルライフを作品の前で語ります。
時間：18:15～19:00
聞き手：菅原真弓
京都造形芸術大学 芸術教育資格支援センター准教授
場所：京都造形芸術大学
ギャラリー・オーブ展示室内

◆レセプション

時間：19:00～20:00
場所：京都造形芸術大学
ギャラリー・オーブ吹抜

会場・問い合わせ：

京都造形芸術大学 ギャラリー・オーブ
tel:075-791-9122 (代表)
(お問い合わせ時間：平日 9:00～17:00)
galerie-aube@kuad.kyoto-art.ac.jp
京都造形芸術大学人間館1F
京都市左京区北白川瓜生山 2-116

Galerie Aube



<アクセス>
・市バス5系統、204系統、3系統
「上終町京都造形芸術大学前」下車
・叡山電車「茶山」駅下車
徒歩10分
* 駐車場はございませんので、車での来場はご遠慮ください。



「無題」キャンバス、油彩 2005年 248.5×333.3cm

いしやま さく

1921年満州生まれ。戦後、新聞記者となり、岡本太郎を取材し影響を受ける。1960年より本格的に絵を描き始め、60～70年代は銀座界隈の画廊にて発表していたが、理解者である南画廊オーナーの死後、最近まで発表せずにひっそりと500号もの巨大作品を描き続けていた。現在87歳ですますます元気。美声でカンツォーネを独唱し、今なお500号を描き続ける。

2004年 個展 高崎シティギャラリー
2007年 個展 BankArt1929 studio NYK 等

石山朔



「ミアのケッコンシキ」キャンバス、油彩 1997年 130.3×162.1cm

とうもと しずこ

1913年熊本生まれ。50歳を過ぎてから画家である息子の使い残した油絵の具やキャンバスを使って、独学で描き始めた。家族のこと、庭の植物、少女の頃の思い出、自分をとりまく様々なものを描く。なかには、幼い頃の自分と現在の自分が入り交じった空想の絵もある。また、手に入りやすい段ボールや板材、空き瓶やそうめんの箱にまで、まさに呼吸するように日々描いていた。

1996年「芸術と素朴」世田谷美術館
2000年「素朴って？ライフ&ビジョン」愛媛県美術館 等

塔本シスコ



「柿もぎ」水墨彩色、クレヨン 1949年 90×90cm

まるき すみ

1875年広島生まれ。結婚後、家業の船宿業と農業に従事し、《原爆の図》の画家として知られる長男・位里のほか4人の子を生み育てる。1931年広島市三滝町に移り、そこで原爆を体験。夫は翌年死亡。子供と同居し働かなくてよくなると、じいとしていられず退屈がるスマは、位里夫妻に絵を描くことをすすめられて、1949年頃から絵筆をとる。身近な野菜や動物、風景などを無心に描き、高い評価をうける。

1951年 女流画家協会展 (52' 53' 54' 58')
日本美術院展 (52' 53' 55') 等

丸木スマ

